

## レポート作成の手引

各レポート, 対応する回ごとに章(\section)に分け, テキストの報告内容にて指示されている課題ごとに節(\subsection)を用意して記載する。次章にて第 1 回分の例を記載しているので, 適宜参考にすること。

### 0.1 プログラムのソースコード, 実行結果等を掲載する場合

プログラムのソースコードや実行結果等を貼り付ける場合は, \lstlisting 環境を用いると良い。使い方は, このファイルの tex ソースを参考にする。基本的には, ソースに記載の内容をコピーし, 実行結果を書き換えると良い。

ここに実行結果を貼り付ける。

### 0.2 課題

各回で用意されている考察・調査課題については, \kadai を用いて, 課題文と回答を記載する。第 1 回分の例を参考にすること。

### 0.3 図の貼り付け

図を貼り付ける場合は, \figure 環境を用いる。基本的には, このファイルの tex ソース内にある記述をそのまま用いれば良い。 \includegraphics で画像ファイルを指定し, \caption で図にキャプションを付ける。 \label は, 本文中で図番号を参照するために付けておくラベルである(詳しくは後述)。



図 1 図のサンプル

本文中で図を引用する場合は, 図中で指定した label を \ref を用いて参照する。例えば上図で \label{fig:sample} としている状態で本文中に “図\ref{fig:sample}” と記述すると, tex コンパイル後のファイルでは当該箇所が “図 1” に変換される。“図??” となる場合は, もう 1 度 tex コンパイルしてみて, それでも参照がされない場合は, ラベルが一致しているかどうか確認する。

### 0.4 (第 3 レポートのみ) グループ内の役割分担

第 3 レポートの対象となる回では, 複数人のグループで作業を行うため, 各回で誰が何を担当したのかも節(\subsection)を用いて記載する。以下は記載例である。tex ソースに記載の通り, \description 環境を用いると良い。

s123456 学生 なまえ ネットワークの配線, 環境の構築

s135791 相方 ひとりめ プログラムのコーディング, デバッグ

s246802 相方 ふたりめ コーディングのサポート

s369258 相方 さんにんめ 3 人の応援

### 0.5 参考文献等

書籍, インターネット上の情報などを参考にした場合, 対象となるすべての回のをまとめて, \thebibliography 環境を用いて出展を明記する。書き方は本ファイルの tex ソースを参考にする。

## 第 1 回 誤り制御符号 (1) : パリティ符号

### 1.1 実行結果

```
$ ./parity
```

```
...
```

### 1.2 実行結果に対する考察

前節の実行結果より, ~であることがわかる. また, ~であるものと考えられる.

### 1.3 課題

(1) 今回の実験で作成したパリティ符号は, 偶数パリティと奇数パリティのいずれであるかを答えよ.

~~~であるため, 数パリティである.

(2) 1 ビット水平パリティ符号について調査せよ.

1 ビット水平パリティ符号とは, ~~ものである. ~~.

(3) 1 ビット水平パリティ符号と 1 ビット垂直パリティ符号を組み合わせることにより, 1 ビットの誤りを訂正できることを示せ.

~~.

以上より, 1 ビット水平パリティ符号と~~~, ~~~~できる.

第 x 回 実験タイトル

....

第 x 回 実験タイトル

...

## 参考文献

- [1] 神崎映光，西川津ビビッド，出雲島猫，「書籍の参照はこんな感じ」，島大出版，1979 年．
- [2] 島根大学 総合理工学部 数理・情報システム学科（情報系），<http://www.cis.shimane-u.ac.jp/>．